

一般質問通告書

平成 25 年 5 月 22 日 提出

嵐山町議会議長	議席番号	氏 名	受付番号
長島邦夫 様	13	渋谷登美子 印	
下記のとおり質問したいので通告します。			
	質問事項	質問要旨	答弁者
1	<p>HPVV接種の 必要性と副反応、 子宮頸がん予防 について (答弁書不要)</p>	<p>4月から定期接種となったHPVワクチン接種は必要性がないのに副反応が大きく、少女に重篤な被害をもたらす危険な予防接種として中止を求める運動に賛同しています。</p> <p>(1)新たに定期接種になったヒブ・肺炎球菌・HPVV(サーバリックス・ガーダシル)の24年度実績、すでに4月1日から開始された定期接種の実績について伺います。</p> <p>(2)厚生労働省に報告されているHPV・ヒブ・肺炎球菌・インフルエンザワクチンの副反応の件数、発症率について伺います。</p> <p>(3)嵐山町から中1の少女への予防接種の実施のお知らせでは、「子宮頸がんとは子宮の入り口にできるガンでHPVというウィルスが原因とされています。HPVは100種類以上ありますが、ガンに関連するのは約15種類で、そのうちHPV16型と18型の2種類が6割を占める」との情報提供があります。が、厚生労働省が、一般女性の細胞診のうちHPV16型と18型の検出率が0.7%であると把握し、HPVに感染後、HPVの自然排出は90%であり、持続的な感染があり前がん病変の軽度異型性状況になっても、そのうち90%が自然治癒し、残りの10%が子宮頸がんになること、実際には10万人に7人の発生率であることをご存知でしょうか。</p>	健康いきいき課課長